

1 沿革

年	月	事 項	年	月	事 項
大正 8 (1919)	12	開港60年・自治制30周年記念事業として図書館の建設を計画。	昭和 45 (1970)	8	移動図書館「はまかぜ1号・2号」による巡回貸出開始。
10 (1921)	6	横浜公園内の建設事務所内仮閲覧所で図書の閲覧開始(横浜市図書館の創立)。	47 (1972)	10	『横浜市図書館行政の施策と展望(意見具申)』(横浜市社会教育委員会議)が出される。
12 (1923)	9	関東大震災により建物と蔵書を焼失。	48 (1973)	11	「横浜市総合計画1985」策定。方面別図書館建設の方針が出される。
	12	中村町のバラックに仮閲覧所を設置し、閲覧開始。	49 (1974)	10	磯子図書館開館。市立図書館2館となる。
13(1924)	3	横浜公園内に仮本館が竣工し、落成記念に震災展覧会を開催。	52 (1977)	4	山内図書館開館。市立図書館3館となる。
	4	閲覧業務を実施。	53 (1978)	11	戸塚図書館開館。市立図書館4館となる。横浜市で初めて貸出にコンピュータ方式を採用。
	9	館外貸出を実施。	54 (1979)	5	戸塚図書館で視覚障害者サービス開始。
昭和 2 (1927)	7	旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工。	55 (1980)	1	鶴見図書館開館。市立図書館5館となる。
5 (1930)	1	『横浜市図書館報』創刊。	5	金沢図書館開館。市立図書館6館となる。	
9 (1934)	11	巡回文庫開設(4隣保館に図書の一括貸出)。	6	磯子図書館(フォトチャージ式)、山内図書館(記名式トークン)の貸出方法をコンピュータ方式に転換。	
14 (1939)	4	町村合併により、都筑郡都岡村、田奈村、及び鎌倉郡瀬谷村の各図書館を廃止し本館閲覧所として設置。	7	『こだま』『ひろば』を統合し、図書館報『よこはま』創刊。	
19 (1944)	10	一般閲覧室を市会議場として使用。	8	港北図書館開館。市立図書館7館となる。	
20 (1945)	3	横浜連隊区司令部の接收により戸部小学校に移転。図書館の建物は、終戦後米軍に続いて市復興局が使用。	9	中国・上海図書館との図書交換開始。	
	5	横浜大空襲。	56 (1981)	1	中国・遼寧省図書館との図書交換開始。
	9	戸部小学校から教育会館に移転。	4	図書館間の連絡車が稼動。	
22 (1947)	8	移転先より野毛に復帰。	10	横浜市図書館創立60周年記念講演会・パネル展開催。	
	9	開架式で閲覧業務を再開。	12	「よこはま21世紀プラン」策定。1区1館建設及び中央図書館建設方針を確立。	
25 (1950)	4	館外個人貸出開始。図書館法公布で閲覧無料となる。	57 (1982)	5	保土ヶ谷図書館開館。市立図書館8館となる。
29 (1954)	10	団体貸出事業開始。読書週間行事として1日図書館長(女優 岸恵子)実施。	58 (1983)	2	戸塚図書館で団体貸出開始。
32 (1957)	3	『郷土よこはま』創刊。	59 (1984)	3	金沢図書館、港北図書館で団体貸出開始。
33 (1958)	8	巡回緑陰子供図書館を日吉の慶応大学構内等で実施。	60 (1985)	1	瀬谷図書館開館。市立図書館9館となる。
34 (1959)	1	国立国会図書館と相互貸借を開始。	3	保土ヶ谷図書館で団体貸出開始。	
	5	「サンディエゴ＝横浜友情文庫」を特設。	5	旭図書館開館。市立図書館10館となる。	
	7	貸出文庫用自動車購入。翌年1月より本格的に配本開始。	10	「横浜市中心図書館基本構想委員会」設置。	
35 (1960)	5	日吉閲覧所開設(44年9月団体貸出に移行)。	62 (1987)	1	港南図書館開館。市立図書館11館となる。
38 (1963)	1	新館増改築工事竣工。	4	地域図書館の火～木曜日の開館時間を午後7時までに延長(金曜日は以前より7時)。	
43 (1968)	5	第1回母親読書教室を開催。	5	『横浜市中心図書館基本構想委員会報告書』提出される。	
44 (1969)	8	団体貸出用広報『ひろば』創刊。	10	神奈川図書館開館。市立図書館12館となる。	
45 (1970)	4	横浜市図書館報『こだま』創刊。	11	各図書館報を統合して横浜市立図書館報『横浜』創刊。「文化の日」開館開始。	

年	月	事 項	年	月	事 項
昭和62(1987)	12	保土ヶ谷図書館、金沢図書館で視覚障害者サービスを開始。	平成8(1996)	5	中央図書館でCD-ROM検索サービス開始。
63(1988)	1	山内図書館改修工事竣工、団体貸出開始。		12	緑図書館で視覚障害者サービス開始。
	3	横浜市図書館貴重資料展示会「100年前の横浜大探検」開催。	9(1997)	3	磯子図書館、移転再整備工事着手。
平成元(1989)	2	泉図書館開館。市立図書館13館となる。	10(1998)	3	図書館ホームページを開設、インターネットによる蔵書検索サービス開始。
	3	栄図書館開館。市立図書館14館となる。『横浜市中央図書館資料収集検討委員会報告書』が提出される。			旭図書館で視覚障害者サービス開始。
	5	中図書館開館。市立図書館15館となる。「こどもの日」開館開始。	11(1999)	3	鶴見図書館で視覚障害者サービス開始。
	11	「よこはま21世紀プラン」第3次実施計画策定により、中央図書館・分館を含めた図書サービスネットワーク確立の方針を打ち出す。		5	「庁内情報拠点化事業」開始。
2(1990)	1	中央図書館建設のため横浜市図書館休館。	11	11	磯子図書館、磯子区総合庁舎内に移転開館。
	3	横浜市図書館仮設館開館。山内図書館で視覚障害者サービスを開始。	12	12	磯子図書館で視覚障害者サービス開始。
	9	横浜市図書館を解体、中央図書館建設工事開始。	12(2000)	3	瀬谷図書館で視覚障害者サービス開始。
	10	泉図書館で視覚障害者サービス開始。		4	市立図書館全館で祝日等年間30日の開館日拡大。中央図書館の火～金曜日の開館時間を午後8時30分までに延長。
3(1991)	4	神奈川県図書館情報ネットワークシステム(KL-NET)に加入。バンクーバー公共図書館との図書交換開始。	13(2001)	12	市立図書館全館で月曜日開館開始。
	10	中図書館で視覚障害者サービス開始。	14(2002)	12	「横浜市中期政策プラン」策定。地区センターとの連携、図書館情報システムの改善を計画。
4(1992)	10	栄図書館で視覚障害者サービス開始。	15(2003)	1	図書館情報システムを更新。
	12	南図書館開館。市立図書館16館となる。	16(2004)	3	蔵書検索結果の資料詳細画面に、目次、要旨、内容紹介等の情報を追加。
5(1993)	10	横浜市図書館仮設館の個人貸出・閲覧業務を停止。		5	Eメールレファレンスサービス開始。
6(1994)	1	各図書館で「横浜市局立図書館情報システム」による窓口業務開始。	17(2005)	4	図書館ホームページに「Yokohama's Memory《都市横浜の記憶》」を公開。図書館ホームページにバナー広告掲載開始。蔵書検索システム上に地区センター・コミュニティハウスの蔵書情報を公開。
	2	中央図書館一部開館。		5	青葉区・奈良地区センターでの返却取次ぎサービス試行開始。東急市が尾駅に返却ポスト設置。
	4	中央図書館全面開館。図書館情報システム全面稼働。		9	図書貸出票に広告掲載開始。
	12	南図書館で視覚障害者サービス開始。「ゆめはま2010プラン」基本計画策定。1区1館達成後、図書館8館の新設と地区センター等とのネットワーク整備を計画。	10	10	インターネットでの予約サービス開始。
7(1995)	4	都筑図書館開館。市立図書館17館となる。	12	12	相鉄二俣川駅、JR東戸塚駅の行政サービスコーナーで貸出・返却サービスの試行開始。東急青葉台駅、たまプラーザ駅に返却ポスト設置。田奈ステーションでの返却サービスの試行開始。
	5	緑図書館開館。市立図書館18館となる。			
8(1996)	1	中央図書館で来館困難な障害者に対する郵送貸出サービス開始。	18(2006)	2	中央図書館でインターネット閲覧サービス開始。
	3	神奈川図書館で視覚障害者サービス開始。			